

心に残る文化財子供塾 安来市立赤屋小学校

1. 活動の概要

5月21日（水）、安来市立赤屋小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに、安来市教育委員会文化課の職員の方から、学校の近隣にある上の台古墳群の概要と、出土した埴輪や土器等についての解説を聞きました。児童の皆さんは、少し前に安来市立歴史資料館を訪れ歴史学習をしていたこともあり、埴輪や土器について、講師の問いかけに積極的に発言をしていました。また、出土した埴輪や土器に触れながら、どうやって作ったのか、何に使ったのか、興味を持って考えていました。

次に、島根県埋蔵文化財調査センターの職員から、古代の銅鏡について説明を受けました。鏡は古代の人の墓に入れられていたことや、鏡の作り方、鏡の種類等を勉強しました。その後、古墳から出土した本物の鏡や写真を見て、どんな模様がつけられているのか想像力を働かせながら考えました。

続いて、いよいよ金属鏡作り体験です。この体験を楽しみにしていたという児童の皆さんは、休憩も忘れるほど熱心に体験に取り組みました。まず、低い温度で溶け出す金属を鍋で溶かし、鋳型に流し込む作業を各班で行いました。そしていよいよ研磨の作業です。一人1個ずつ、磨き用の耐水ペーパーで力を込めて一生懸命磨きました。なかなか全体がきれいに磨けなくて苦労している子もいましたが、最後には全員が自分だけのピカピカの鏡を作ることができました。

2. 活動の様子

1) 安来市、出雲地方の歴史・遺跡を知る



「近くの上の台古墳群から出土した遺物です。」



「これは何器でしょう？」
「スエキ！」

「大きくて重たいね。」



2) 銅鏡作り体験・古代衣装試着体験



銅鏡について学ぶ



金属を慎重に鑄型に流し込んで…



ひたすら磨きます。



「なかなかきれいにならないよー」「がんばって！」



全員ピカピカになりました！

3. 子ども塾を終えて（アンケート等より）

1) 児童の皆さんから…

- ・昔の人はどうやって磨いていたのか知りたい。
- ・昔の人はきれいに磨くのもっと時間がかかって大変だっただろうなと思った。
- ・きれいに磨くのがすごく大変だったけど、できでよかった。
- ・前に着た古代衣装は茶色だったけどカラフルな衣装が着られてよかった。
- ・もっと磨く時間が欲しかった。

2) 担任の先生から…

- ・磨きの時間を多く取ったが、子供の手では難しく時間が足りなかったもので、途中まで磨いてある等完成できるようになっているとよいと思う。
- ・出土品に触れることができ、とても良かった。

3) 埋文センターの職員から…

自分の住んでいる地域に古墳がたくさんあることを知り、そこから出土した埴輪や土器に触れながら学習することで、古代の人々の生活について理解を深めてもらうことができました。事前に歴史学習をしており、古墳や埴輪、出土品について熱心に質問する子もいて驚きました。銅鏡作り体験では、金属が溶け出す時の驚きや、鑄型をはずす時の緊張、一生懸命磨いた鏡がピカピカになる喜び等を味わうことができたようで、思い出に残る体験になったかな、と思っています。また、接合途中の出土品に興味を示している子ども達の様子を見て、今後の子ども塾等での体験活動の参考にもなりました。

赤屋小学校の皆さん、ありがとうございました。